

TRILL ART CLASS通信

2025年11月号

アートクラスの先月の活動

幼児クラス

幼児クラスの活動では、ねん土と紙を使ったコウモリの制作に挑戦しました(^^)羽根の形の画用紙に模様を描いて色を塗ったら、ねん土でマトリョーシカのような丸みのある体を成形して貼り付けて色を塗ります！最後に磁石を埋め込んだら、壁にくっつく可愛いコウモリの完成です！平面的な素材（紙）と立体的な素材（ねん土）を組み合わせる経験は、発想力と表現力が育まれる、複合的なアート体験です！



小学生クラス

小学生クラスでは、ハロウィンのモチーフとしてカボチャの絵画に挑戦しました。画面の中心に描いた楕円から、左右に楕円を足してカボチャの凸凹の形を描きます！目・鼻・口の表情を描き入れ、黄色～オレンジ系のグラデーションと緑でカラフルに彩色しました。シンプルな形を構成して、モチーフの形を作り上げる経験を通じて、物の形を描くときには色々なアプローチがあることを学んでももらえたらうれしいです！



絵画・デッサンクラス

絵画クラスでは、鉢植えの植物の絵画制作のまとめに取り組みました。みんなが苦労していたのは、観葉植物の葉っぱの裏表の描き分け。明暗、質感、色味、様々な要素を組み合わせモチーフの性質を表現するチャレンジができていましたね！

デッサンイラストクラスでは、スニーカーのデッサンと着彩に挑戦しました。単に見えた形を愚直に追いかけるのではなく、「ゴム底があり、布があり、そこに穴が開いていて紐が通っている」という、モチーフの構造を理解したうえで描くことを心掛けました！



おおぞら先生のちょこっとコラム

言葉のバカンス ～自動車道にのって～

最近、ふとしたきっかけで「水曜日のカンパネラ」にはまっております。(毎度のことながら、我ながら、物事にはまるタイミングが謎である。)「水曜日のカンパネラ」(以下、「水カン」とします)は、ボーカル・作曲家・ディレクターの3人で構成された音楽ユニットです。個性的なビジュアルとユニークな言葉遊び、それらを支える巧みな音楽センスの三つが絶妙なバランスで組み合わせ、独自の世界観を展開しています。コンスタントに皆が知っているヒット曲もリリースしており、『歌う暇があったら発明して〜♪』のフレーズで耳なじみのある「エジソン」などが有名です。

僕が特に魅力的に感じているのは、彼らの歌詞の面白さです。水カンの音楽は、ノリの良いテンポにきれいなメロディーが合わさり、そこにドラマティックな音楽的展開も用意されています。歌詞が英語で、言葉を聞き取らずに聞き流していれば、「野外フェスの夕暮れでかかっていたらバチっとはまりそうなエモい感じ」の音楽なのですが、そこに乗っかっている歌詞が、圧倒的に「変」なのです。

銭湯と悪魔をテーマにしたラップナンバー「ディアブロ」。童話の登場人物が、非常に冷めた目線で自身のおかれた状況を分析する「赤ずきん」。等々、あげればきりがない、水カンの「変」な歌詞の数々。彼らの歌詞の基本スタンスは、「言葉遊び」です。もっと言ってしまうと駄洒落です。

その駄洒落がハイクオリティの音源と合わさると何が起ること。それは「言葉の生まれ変わり」です。

ここでは、「シャドウ」という楽曲を挙げてみます。この曲のテーマは「高速道路」です。自動車道の「シャドウ」と、忍者のメタファーである影(shadow)の「シャドウ」がかかっている、ザ・ダジャレです。このダジャレを起点に、高速道路の名前を呪文のように列挙してみたり、そこにマキビシなどの忍者モチーフを絡ませながら歌詞は展開されます。

この世界に一度浸ってしまうと、僕たちの頭のなかでは「車道」という言葉は、「シャドウ」という意味を持たない音に変換され、忍者の「shadow(影=忍者)」という新しい意味が与えられます。

言い換えれば、一曲の中で、言葉の「音」を意味から切り離して、そこ新しい意味を与える。というとてもねえ事をやっているわけです。これが単なる言葉遊びだけだったら、「駄洒落だね」で終わるところですが、水カンはこれを見事な音楽で調理することで、自然と「車道→シャドウ→shadow→忍者」という言葉の「生まれ変わり」を実現してしまっています。

残念ながらことながら、この生まれ変わりで世界平和が実現されるわけでも、GDPが上がるわけでもないのですが、私は、この現象がたまらなく好きなのです。

もう少し考えてみると、この現象は、僕たちが旅行にでかけるのと似ている気がします。旅行とは、普段とは縁もゆかりもない土地で、普段の社会的な役割、つまり僕たちに課せられた「意味」から解放されて、「何者でもないただのヒト」になるのと似ているな。と。

そう考えると、水カンの言葉遊びは「言葉のバカンス」とでもいえるのかもしれない。バカンスを得た言葉は、もう前の言葉ではありません。新しい意味併せ持った言葉に生まれ変わっているのですから。

おかげで、僕はこれから東名自動「車道」を走るたびに、分岐表示の緑の看板の影の中にはいるはずもない忍者を探す羽目になってしまいました。愉快な大迷惑です。

今月の活動予定はこちら